

第6分野 個性を活かし持続可能な地域づくりを推進するまち

基本方針2

誇り高きところを育み 人の流れを
起こし 産業に結びつく地域づくり
を進めます

～みんながつながり 広がる古今伝授の里
「大和」～

事業年度	令和5年度
責任部長	大和振興事務所長
責任課長	大和振興課長
責 任 課	大和振興課
主管課・関係課	大和振興課、社会教育課、商工課、観光課、政策推進課、学校教育課

■ 施策の概要

施策1: 古今伝授の里づくりと担い手づくり

【主管課:大和振興事務所 振興課】

大和地域は、東氏ゆかりの歴史文化遺産を活かした「古今伝授の里づくり」をシンボル事業として位置づけ、施設整備や様々な文化事業を実施し、その個性を磨き魅力を高めてきました。その結果「歌のまち」としてのイメージが定着し、交流人口の増加につながっています。また、地域の魅力に共感した移住者が増えつつあります。しかし、このような人の流れを地域の活性化につなげる取り組みは十分とは言えず、加えて少子高齢化に伴う人口減少により、次世代の地域づくりの担い手も減少し、地域力の低下が懸念されます。このため、東氏入部800年、古今伝授550年を契機に、東氏の歴史や文化遺産を検証し、周知や活用につなげ、個性あるまちの魅力を高め、その効果が産業にも結び付き取り組みを進めると同時に、大和地域に住む人々がまちを誇りに思い、心豊かに暮らせる地域づくりを推進します。また、自分たちの地域は自分たちで良くしていくという気運を醸成し、地域住民の自主的な活動を支援していきます。

施策2: 大和地域ブランドの磨き上げ

【主管課:大和振興事務所 振興課】

交流・情報発信の場として、古今伝授の里フィールドミュージアム、やまと温泉やすらぎ館、道の駅古今伝授の里やまと、郡上旬菜館やまとの朝市などのほか、商業集積地などに市内外から多くの人が訪れています。また、和歌をはじめとした中世からの文化、どぶろくやジビエをはじめとした食などの地域資源を大和地域ブランドとして確立する取り組みを進めてきました。一方、大和地域の観光入込客は伸び悩んでおり、まだまだ地域資源を活かしきれていないのが現状です。しかし、令和2年に外資系ホテルが進出したことを受け、人の流れが大きく変わることが期待されます。この機会を活かすため、地域資源の活用を進め、多様化する来訪客に対応した観光案内や情報通信環境の整備等を行い、大和地域ブランドの磨き上げを進めます。

施策3: みんながつながる大和づくり

【主管課:大和振興事務所 振興課】

令和6年4月に、4つの小学校が統合することから、校区が広がり、ますます地域内の交流の機会が減っていくことが懸念されます。そのため、世代を超えた交流の場を積極的に設け、みんなで地域づくりに取り組んでいく必要があります。今後、コミュニティ・スクールの取り組みとあわせて、統合する新しい小学校が地域や世代間の交流の拠点となるよう検討するとともに、統合により使用されなくなる各小学校の利活用についても検討していきます。

■ 基本方針に係る総括評価(所見)

【責任部長:大和振興事務所長】

郡上東氏800年・古今伝授550年祭による継続事業として、短歌大会の開催、東庄町との交流、創作オペレッタ「東氏ものがたり」の公演等、郡上ケーブルテレビや地域情報誌等を活用し、情報の発信と古今伝授の里の魅力を伝える施策に取り組む事ができた。引き続き、創作オペレッタ「東氏ものがたり」は、学校行事として引き継がれ古今伝授の里づくりと担い手づくりが期待される。また、今回認定された商品を通じ事業の周知や地域経済の振興に繋げる事も出来ている。

どぶろくやジビエ等の地域資源を活用した取り組みでは、全国どぶろく研究大会でのコンテストで3製造業者が入賞以上の優秀な成績をおさめたことで、これを契機に更なる地域ブランドの確立と地域経済への展開が期待される。また、多様化する来訪客に対応した施策として、過疎ソフト事業における地域独自のガイドブックの作製を行いそれを活用した展開を図りたい。

コミュニティ・スクールの取組みとしては、中学生が積極的に地域イベント、公民館活動に参加し、将来を担う人材育成が期待される。また、継続して廃校となった小学校等の跡地利活用については、大和地域エリア再編を含め地域の発展、活性化となるよう公有財産の有効活用にあたってのガイドラインに沿って検討を行っていく。

■施策ごとの評価

施策1:古今伝授の里づくりと担い手づくり

【主管課:大和振興事務所 振興課】

評価

A

目指す姿に向けて概ね順調である。

▶後期基本計画策定時の「現状と課題」	◎後期基本計画策定時の「目指す姿」
・古今伝授の里づくりによる交流人口は増加しているが、地域の活性化につなげる取り組みは不十分 ・少子高齢化の進行による地域づくりの担い手不足と地域力の低下	「歌のまち」として魅力が高まることでまちを誇りに思い、地域住民が主体となって活動するまち

I.施策の取組効果や達成状況に関する分析(関連する事務事業の成果や積み残されている課題など)
【成果】 ・「郡上東氏800年・古今伝授550年祭」事業の一環として、連続講座、史跡ウォーク、創作オペレッタ公演、短歌教室、周知啓発(懸垂幕・幟の掲出継続、認定商品制度の継続、PR動画制作)等を実施した。 ・「歌のまちづくり」事業の一環として、ジュニア短歌育成事業(大和地域小中学校での短歌教育)、初心者向け短歌教室、一般向け短歌教室、連歌会、薪能くるす桜等を実施した。 ・「薪能くるす桜」や古今伝授の里春祭りでは、大和南小学校児童が仕舞と地謡で参加したり中学生ボランティアを募るなど、これらの活動に触れることで興味を持ってもらい、将来の担い手につなげるための取り組みを実施した。 ・和歌文学に秀でた郡上東氏の歴史文化を検証し市民に周知しながら、市民が主体的に参加できる事業を実施することで、歌のまちとしての文化と歴史を持つ地で暮らす誇りに繋がっている。中でも創作オペレッタ「東氏ものがたり」の取り組みでは、脚本・演出から舞台衣装に至るまでオール郡上で制作、公演した実績は大きい。 【課題】 ・800年祭の認定商品制度を引き続き実施し地域経済振興への展開を試みたが、十分な成果をあげていない。 ・短歌を生かしたまちづくりは、専門性の高い事業を継続しつつ、一般市民向けの裾野が広い取り組みに一層力を入れる必要がある。 ・小中学生へのアプローチは継続的に行っているものの、高校生など次世代の担い手までにはつながっていない。
II.今後の方向性と具体的な展開
・東氏館跡庭園(国名勝)・篠脇城跡(県史跡)の国史跡指定(令和6年度)、国民文化祭「短歌の祭典」(令和6年度)が予定されている。これらを好機として捉え、市民に対する周知や参画機会を計画的かつ積極的に提供するとともに、参画者を主体とした自主的な取り組みを促す素地を作る。具体的には、郡上東氏800年・古今伝授550年祭と連動させ、東氏の歴史や文化を学ぶ機会を提供し、あわせて短歌の専門的な内容のフォーラムや展示を開催し、「歌のまち」の個性化を図るとともに、学校と連携したジュニア短歌育成や短歌初心者向けの教室開催等により短歌への関心を高めていく。 ・東海環状自動車道全通を見据えて、観光協会等と連携し全国的な情報発信を検討し、地域経済への展開を促していく。このために必要な核施設・古今伝授の里フィールドミュージアムの施設整備や音声ガイド設置の準備等を、教育委員会と連携しながら検討していく。

施策2:大和地域ブランドの磨き上げ

【主管課:大和振興事務所 振興課】

評価

B

目指す姿に向けて概ね順調であるが、一部努力を要する。

▶後期基本計画策定時の「現状と課題」	◎後期基本計画策定時の「目指す姿」
・地域資源(文化、観光、食等)の活用不足 ・多様化する来訪客への対応の充実	地域の資源が地域ブランドとして確立され、多様な観光客を受け入れられるまち

I.施策の取組効果や達成状況に関する分析(関連する事務事業の成果や積み残されている課題など)
【成果】 ・観光者の増加へ向けた取り組みとして、過疎ソフト事業における大和地域独自のガイドブックの作製を行っている。また大和観光協会や郡上市観光連盟ホームページの内容を更新した。 ・地域資源を活用したブランド力の強化として、獣肉(ジビエ)の新商品開発販売・PR活動(個々の店舗)、酒類(どぶろくや発砲清酒)の新商品開発販売・PR活動(東京青山等)を実施したことで、大和のブランドとして定着しつつある。また前年に引き続きぼたん園整備などを行うことで地域資源の保全に努めている。 ・地域資源を活用した事業は、地域内の民間団体が提案・企画し、団体主導で実施され定着している。地域の人たちにも認知され、市民自身が市外へPRされることで波及的に広がりつつある。また前年度全国どぶろく研究大会のコンテストで、出品した事業者全てが入賞したことによって商品の魅力が高まり、さらに他の商品にもそれに引き付けられ販売は徐々に増えてきている。 【課題】 ・多様な観光客の受け入れを目指すためには、活気あるイベント、魅力ある地域資源を掘り起こし、ホームページなどのPR方法ブログなどの更新が必要である。 ・今取り組んでいる地域資源の活用について、さらに価値のあるモノとなるよう磨き、多くの人にPRする。
II.今後の方向性と具体的な展開
・価値のある地域資源を、できるだけ多くの人に見て(感じて)もらえる機会を増やすため、集客力のある施設やイベントでのPRを、市民や民間団体の発想や企画力で実施していく。 ・どぶろく、ジビエ等単体ではなく、800年祭での認定商品制度のように、東氏の歴史や短歌などの文化といった地域資源と絡めたPRを行っていく。 ・地域資源を最大限活用できるよう、看板設置、観光案内、SNS発信、ガイドブック制作など、バランスよく魅力の発信を進める。

施策3:みんながつながる大和づくり		【主管課:大和振興事務所 振興課】	
評価		B	
目指す姿に向けて概ね順調であるが、一部努力を要する。			
▶後期基本計画策定時の「現状と課題」		◎後期基本計画策定時の「目指す姿」	
・小学校の統合に向けた準備と統合後の学校の活用 ・校区が広がることによる地域や世代間の交流、連携の希薄化		・世代・地域を超えた交流の輪がひろがるまち ・学びを通して人と地域がつながるまち	
I.施策の取組効果や達成状況に関する分析(関連する事務事業の成果や積み残されている課題など)			
【成果】 ・令和6年度の小学校統合に向けて、校歌や通学路、PTAのあり方等を協議、決定した。 ・オール郡上で制作した創作オペレッタ「東氏ものがたり」の公演により、小学校4校の生徒が練習を通じての交流と、制作に携わった地元関係者とひとつのことをみんなで創り上げるという経験をしたことで、統合後の学校生活に向けての良い影響を与えている。引き続き創作オペレッタは学校行事として行っていく。 ・大和中学校の「やまとの日」は、中学生地区リーダーが企画し、公民館の協力を得て10月21日に各地区において実施され、中学生の企画したイベントに地域の住民が参加し交流を行った。			
【課題】 ・小学校児童、中学校生徒と地域の繋がりは、コミュニティースクールなどの取り組みや学校の理解協力がありすすめられているが、以前より課題となっている高校生以上の若者や子育て世代と地域の繋がりが希薄となっている。 ・地区公民館など、現在の学校区での地域の繋がりや活動のあり方を検討する必要がある。			
II.今後の方向性と具体的な展開			
・大和小学校が開校となり、令和5年11月に講演した創作オペレッタ「東氏ものがたり」は学校行事の一環として引き続き行っていく。 ・廃校となる小学校の活用について、地域の活性化につながる具体的な活用の可能性を検討していく。 ・小学校の統合により地域の衰退とならない取組みや、若者が地域活動に積極的参加できるような仕組みづくりを、地区公民館や地域協議会などと連携し計画を検討していく。			

■後期基本計画策定後新たに生じた課題等

■関連する個別計画の有無
無